

令和6年度 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
(地方ステージ 近畿ブロック)

- [主 催] 国立淡路青少年交流の家
[期 日] 令和6年12月21日(土)
[目 的] ものごとを探究する姿勢、主体的な態度、課題に向き合う力を身につけるとともに、郷土や自然に愛着を持ち自ら行動する高校生を育成する
[対象/参加] 奈良県立添上高等学校(グループ部門2:計5名)
兵庫県立洲本実業高等学校(グループ部門2、個人部門1:計6名)
[担 当] 三木智拡(主任企画指導専門職)、森岡亮平(企画指導専門職)、佐藤素子(所長)、角田正博(次長)



1 趣 旨

オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付けるとともに、地域での実践活動においては、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する高校生の育成を目的としている。また、実践活動を行った高校生が学びや成果を発表する場を設けることにより、体験活動を積極的に行った高校生を学校や社会がしっかりと評価するよう、その機運を高める。

2 プログラム展開

- 10:00～ 受付
10:30～ 発表に向けての準備、機器動作の確認(昼食を含む)
12:25～ 開会・趣旨説明
12:40～ プレゼン発表(発表準備5分・発表7分・質疑応答8分)
14:15～ 審査 評価委員: 沖 清豪 氏(早稲田大学文学学術院 教授)
井上 奈穂 氏(鳴門教育大学 准教授)
西岡 敬三 (国立淡路青少年交流の家 所長)
14:15～ 評価会(審査結果・講評)
15:25～ 閉会式

3 活動の様子



4 まとめ(生徒及び教員の感想から)

- ・ 緊張したけど、頑張ってきたことが評価されて嬉しかった。
- ・ 社会の課題に対して立ち向かうプレゼンだった。高校生としてどのように取り組んでいくのか考えることができていた。今後、社会に出たときどう生きるかが大切だと思う。全体を通してさらにステップアップしてほしい。
- ・ カレーが美味しかった。レシピがあると更にいいプレゼンになると思う。